第３回次期あいちビジョン有識者懇談会県土基盤分科会議事録

日時　2020 年 8 月 17 日（月）
午前 10 時から正午まで
場所　愛知県自治センター　６０３会議室

あいさつ

＜坂田政策企画局企画調整部長＞

愛知県政策企画局企画調整部長の坂田でございます。

本日は、座長の森川先生をはじめ委員の先生方には、大変お忙しい中、ご参加いただきましてありがとうございます。

また、日頃より、愛知県政の推進に格別のご支援、ご協力をいただいておりますことを、この場をお借りしまして、御礼申し上げます。

本日の会議はご案内のとおり、新型コロナウイルス感染症の関係で、ＷＥＢ会議で開催させていただきます。不慣れな点もございますが、どうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、当分科会につきましては、昨年度に２回開催いたしまして、委員の皆様方には、ご専門の立場から、2040 年に向けた社会展望やめざすべき愛知の姿、また、その実現に向けた政策の方向性などについて、幅広くご意見をいただきました。そのご意見を踏まえ、事務局で検討を重ね、この７月 27 日に骨子案として公表させていただいております。

その間、新型コロナウイルス感染症が県民の生活や経済活動に大きな影響を及ぼしたことはご案内のとおりでございます。また、大規模な風水害や、南海トラフでの地震の危険性が高まっていることも考えあわせまして、めざすべき愛知の姿の１番目に、「危機に強い愛知」を掲げることとし、それに伴って重要政策の柱立てにつきましても、一部見直しを行っております。また、2022 年以降のジブリパークの開業や、2026 年のアジア競技大会などのプロジェクトの最大限の活用や、ＳＤＧｓの達成など、地域づくりを推進するに当たっての横断的な視点も盛り込んでおります。

後ほど、事務局から詳細をご説明させていただきますが、本日、皆様方には、この骨子案を基に整理しました「次期あいちビジョン素案たたき台」についてのご意見とともに、進捗を図るための「進捗管理指標（案）」について、ご意見をいただきたいと存じます。

分野別にご議論をいただく分科会といたしましては、本日が最終回でございますので、何卒忌憚のないご意見をいただきたく存じます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

事務局説明

＜事務局＞

それでは、事務局から、資料に沿ってご説明いたします。

まず、「次期あいちビジョンの骨子案」でございます。資料１－１の「骨子案の概要」をご覧ください。詳細な説明は省略させていただきますが、新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、

「Ⅱ」の 2040 年頃に「めざすべき愛知の姿」の一番目に「①危機に強い愛知」を新たに位置づけております。右側でございますが、「Ⅳ」の 2030 年度までに取り組むべき「重要政策の方向性」につきましても、一番目に「①危機に強い安全・安心な地域づくり」を位置付けるなど構成を見直しております。本日は、主に１番、８番、９番、10 番の４つの項目について、御議論いただきたく存じます。

次に、資料２「次期あいちビジョン素案たたき台」をご覧ください。これまでの有識者懇談会及び分科会の意見を始め、新型コロナウイルス感染症の影響について行った有識者懇談会委員の方々へのヒアリングや、国の地方機関、市町村の意見等を踏まえ、重要政策の方向性に盛り込んでいく要素について整理いたしました。本日の分科会でいただいたご意見も踏まえ、成文化し「次期あいちビジョンの素案」としていきたいと考えております。

１ページの「危機に強い安全・安心な地域づくり」です。左側の着色された部分は、2040 年頃を展望した背景、2030 年度までにめざすべき姿、それらに向けて取り組むべき課題を示しております。新型コロナウイルスなど感染症対策を始め、大規模テロや武力攻撃などへの危機管理、自然災害に対する防災・減災対策、交通安全対策や防犯など、安全・安心な地域づくりを進めるために必要と考える主要な政策の方向性を示しております。

右側をご覧ください。主要な政策の方向性として、骨子案に示した内容を「◆」のマークや、「() 書き」で記載し、それらの実現に向けて取り組んでいく方向性の要素を箇条書きにしております。

上２つの「◆」は、感染症対策をはじめとした危機管理体制の充実に関するものです。また、３番目の「◆」からは防災に関する内容です。一番下の（風水害対策の推進）の３つめの「・」では、村山委員や髙木委員からご意見をいただいた「災害リスクの高い地区における土地利用の適正な規制」について、盛り込んでおります。

２ページをご覧ください。左側は、避難態勢の確保や発災時の復旧・復興、防災教育などに関する内容でございます。右側は交通安全、防犯対策等に関する内容となっております。

続きまして、少しページをおめくりいただき、16 ページをご覧ください。「スーパー・メガリージョンのセンターを担う大都市圏づくり」です。本県が三大都市圏の中心に位置する地理的優位性を最大限に活かし、リニア中央新幹線の全線開業に伴い形成が期待されるスーパー・メガリージョンのセンターを担いうる大都市圏づくりを進めていくために必要と考える主要な政策の方向性を示しております。

右側をご覧ください。「中京大都市圏の拠点性の向上」として、まず、陸空海の交通ネットワークの強化について示しております。石川委員からいただいたご意見を踏まえ、（広域道路ネットワークの整備）の２つ目の「・」で、「圏域内の主要都市・拠点間の移動時間を短縮する道路ネットワークの整備促進」を盛り込んでおります。

また、森川座長のご意見を踏まえ、（モビリティ先進県の実現）において、「自動運転やＭａａＳ等の社会実装の推進」を盛り込んでおります。

次のページをご覧ください。左側の一番上の () 書きでは、今般の感染症の流行で首都圏の過密リスクが表面化したことなど、過度に集中している東京の社会経済的な機能の受け皿としての役割を担っていくことが必要であると考え、様々な都市機能の集積を位置づけております。

中程、「◆交流圏の拡大に向けた戦略的な広域連携」の最初の（）書きの３つ目の「・」では、森川座長のご意見を踏まえ、「北陸・中京新幹線を視野に入れた北陸・中京間の鉄道アクセス向上」を盛り込んでおります。

右側をご覧ください。「◆持続可能でスマートな地域づくり」の最初の（）書きの２つ目の「・」では、森川座長や村山委員のご意見を踏まえ「分散した状態でも豊かで安全・安心な暮らしができるスマートなまちづくり」を盛り込んでおります。また、一番下の（県有施設・社会インフラの効率的な維持管理・更新、運用）では、髙木委員のご意見を踏まえ、３つ目の「・」で、「社会情勢の変化や地域の状況に合わせた共同化、分散化や総量の適正化」を盛り込んでいます。

次のページをご覧ください。「選ばれる魅力的な地域づくり」です。現在は観光にとって大変厳しい状況ですが、中長期的には訪日外国人旅行者数は回復し、さらに増加が見込めるものとして観光の重要性は一層高まっていくものと考えております。ジブリパークやアジア競技大会などのプロジェクトに着実に取り組み、それらを最大限に活用して、旅行者から選ばれる魅力的な地域づくりを進めるとともに、居住地としての魅力も高めていくために必要となる主要な政策の方向性を示しております。

右側をご覧ください。一番目の「◆ジブリパークを活用した地域全体のプロモーションの展開」です。石川委員のご意見を踏まえ、４つ目の「・」に「世界中からジブリパークを訪れる観光客の県内での宿泊や周遊への誘導」を盛り込んでおります。また、このページでは文化芸術の振興やスポーツによる地域の活性化についての主要な政策の方向性も示しております。

次のページをご覧ください。「◆愛知ならではの観光の推進」では、林委員のご意見を踏まえ、「愛知県ならではの魅力の磨き上げ」や「趣味、嗜好に合わせたターゲット設定」などを盛り込んでおります。

また、次の「◆観光交流拠点としての機能強化、人材育成」の２番目の（）書きでは、同じく林委員のご意見を踏まえ「産学行政の交流の活性化などによる観光産業を担う人材の育成」を盛り込んだほか、「感染症に適応した形の観光の普及・啓発など、持続可能な観光の定着に向けた取組の促進」についても新たに位置づけました。

右側をご覧ください。「◆居住地として選ばれる魅力の創造・発信」です。住みやすいだけでなく、「人々をわくわくさせるような魅力の創出」など居住地としての魅力を高めていくことに加え、感染症の流行による「ゆとりある生活環境への志向の高まり」なども最大限活用して、人口の東京一極集中を是正していくために必要な政策について示しております。

次のページをご覧ください。地球温暖化対策、人と自然との共生、資源循環型社会づくりなど、「持続可能な地域づくり」に必要となる主要な政策の方向性について示しております。

右側をご覧ください。まず「◆脱炭素社会を見据えた地球温暖化対策の推進」です。杉山委員のご意見を踏まえ、２つ目の（）書きでは「分散型電源の活用や地産地消のエネルギー利用の推進」を、３つ目の（）書きでは「ＥＳＧ投資の呼び込み」を、一番下の（）書きでは「気候変動への適応策の推進」を盛り込んでおります。

次のページをご覧ください。「◆人と自然との共生の実現」では、生物多様性の保全や森林や海域環境等の保全について示しております。また、「◆資源循環型社会づくり」では、杉山委員のご意見を踏まえ、１つ目の（）書きで「循環経済（サーキュラーエコノミー）の考え方も取り

入れて」取り組んでいくことを盛り込んでおります。

右側をご覧ください。こちらでは、持続可能な社会の担い手となる「(行動する人づくりの推進)」などについて示しております。

資料２の説明は、以上でございます。主要な政策の方向性として、不足する要素はないか、さらに充実すべき点はないかなど、御意見いただきたいと存じます。

続いて、資料３をご覧ください。こちらは、今ご説明しました重要政策の進捗を測るための指標について、経年的に確認していくことが可能な数値を、各項目３つから５つ整理したものです。全ての指標において、数値目標を設定することは難しいと考えておりますが、重要な指標については設定を検討していきたいと考えています。

また、指標につきましては、現行ビジョンとの連続性を保つということを意識しながら整理したものであります。なお、世界と比較できる指標につきましても検討してみましたが、なかなか県単位のデータとして比較可能なものが見つからない状況ですので、本日、よい指標がございましたらご紹介いただけましたら幸いです。

表左側の番号１番から５番の柱１では、防災対策の指標として「地域防災リーダーの育成数」などを挙げております。２ページめくっていただき、３ページをご覧ください。34 番から 38 番の柱８では、大都市圏の基盤整備に係る指標として「主要な拠点間のアクセスを強化する道路整備延長」など、39 番から 43 番の柱９では観光施策の効果の指標として「観光消費額」など、44 番からの柱 10 では地球温暖化対策の指標として「温室効果ガスの総排出量の削減」などを挙げております。

これら指標に関し、専門的な見地からそれぞれの項目の進捗管理指標として妥当か、他に適した統計指標がないかなど、御意見をいただきたいと考えております。

最後に資料４、本日欠席の村山委員の意見要旨です。素案のたたき台につきましては、夏の暑熱など気候変動リスクや、空港の機能強化における航空貨物や物流の観点、公共交通の維持などについて盛り込んではどうか、また、新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、地元の大学への価値を見出す人が増えるのではないかなどのご意見をいただきました。

進捗管理指標については、自動車・バス・鉄道など移動に関する指標などを検討してはどうかなどのご意見をいただいております。

事務局からの説明は以上でございます。

議題　次期あいちビジョン素案たたき台について

＜石川委員＞

まず、前回の分科会から大きく変わったところとしては、新型コロナウイルス感染症の問題だと思います。この問題については、資料２の中でも最初に記述されており、これまでの議論も踏まえた総合的な観点から、かなり充実した内容になっていると思っています。

重要政策の方向性①について、お話したいと思います。危機に強い安全・安心な地域づくりについては、感染症とか、地震、豪雨災害に共通する安全性とか、治安といった様々なリスクについて考えが示されており、漏れがなく良いと思います。特に、強調しておきたいと思っておりま

すのは、やはりこういった災害や感染症の問題というのは、拠点の分散化と、そのネットワークをしっかり保つということが大事だということです。例えば、災害の場合だと、分散化していれば､他の地域が被災地域をバックアップすることもできますし､事業を継続することもできます。また、新型コロナウイルス感染症では、過度に集積した都市で感染が拡大すると、甚大な被害になるわけですが、そこで医療体制とか経済の問題が生じても、他の拠点地域でバックアップすることができるので、やはり分散化が大事だと思っています。

また、今回、特に飲食業や観光業などをどうやって維持するかという問題が生じましたが、例えば愛知県には、知多、西三河、奥三河といった、尾張を含めいろいろな地域に魅力的な観光地があることを再確認しました。今回、県外にはなかなか出られないこともあり、県内で皆さんが夏休みに色々なところに向かわれたと思いますが、これが例えば、一カ所しか観光拠点がないとそこに集中してしまうことがありますが、愛知県の場合はいくつかの観光拠点がありますので、そういったところにある程度分散して夏休みを過ごすことができたのではないかと思います。例えば、名古屋や尾張からすると、東三河地域はちょっと遠い感覚がありますが、新東名もできまして、１時間ぐらいあれば行けます。そういうことを考えますと、感覚的に遠いところでも、時間短縮によって実際には近いということで、今回のコロナ禍でも東三河の温泉地などでも、増えすぎるのはよくないですが、夏休みに非常に人が増えたと思います。そういったことで、安全安心であれば、観光地の再発見を含めまして、マイクロツーリズムというようなことも、県内でできるのではないかと思います。

また、例えば、今回の会議はオンラインで開催されていますが、テレワークの推奨など、リスクの少ない働き方が大事です。今回、家庭の中でテレワークすることが実は難しいっていうのも分かったので、家の近くにテレワークする場所が提供できると、いろいろな面でやりやすいのではないかと思います。

それから、重要施策の方向性⑧についてです。拠点間の移動時間の短縮、それから道路交通ネットワーク整備とバランスのよい多極連携型の圏域構造が重要です。特にこの中では、主要都市への 40 分交通圏の拡大、それから新幹線の新たな活用は、リニアの開通を契機とした地域発展に大きく寄与すると思っております。

それから 16 ページにＭａａＳの話があります。総合的な交通サービスの利便性を高めていくということは非常に大事な施策だと思います。ただ、よく市町範囲などの小さいエリアでやろうという気運もありますが、是非とも、少なくとも県で、大きく広く、一つのサービスでできればと思います。例えば、小さいエリア単位でＭａａＳが始まってしまうと、中部空港から名古屋駅まではＡサービス、名古屋から長久手まではＢサービス、長久手からまたどこか行こうと思ったらＣサービスで、アプリを三つインストールしなければならない。これでは非常に使いにくいＭａａＳになってしまう。少なくとも、県レベルの広域的なＭａａＳが必要なのではないかと思っています。例えば、ＩＣカードもいろいろなところで導入されていると思いますが、今でも、互換ができなくて、ある交通カードはここのバスでは使えないとか、不便を強いられるため、一つのシステムで利便性を高めることが大事だと思います。

それから 17 ページです。持続可能なスマートな地域づくりというのは、テーマとして非常に大事だと考えていますが、ただ少しぼんやりしていると感じます。前回の分科会では、例えば高

齢化が進むニュータウンとか、それから、そこでの交通とか、具体的にどういうスマート化をしていくかという話もあったように、スマート化は交通とか、健康福祉、安全とか、もう少し様々な分野で具体的に進むという何かしらの記述があってもいいのではないかと感じました。

また、人口が減少して、空き家とか空き地、市街地の空洞化が将来にわたっても課題です。既に人口減少局面にありますし、例えば資料１－２の骨子案の５ページ、めざすべき愛知の姿では、そういった空き家・空き地の課題について書かれていますが、それに対応する取組がわかりませんでした。人口がどんどん増えている時代を想定した都市づくりを想起してしまうのは、少し時代に逆行している感じになりますので、今ある住宅や 50 年前にできたニュータウンなどの住宅地をいかに活用し、再生していくのか。外に自然を開発していくのではなく、中の空洞化を防いで、旧市街地、旧住宅地を再生していくという観点があってもいいのかなと思います。

重要政策の⑨については、名古屋にはレゴランドができたり、レジャー拠点が複数出来ていますが、やはりディズニーランドや、大阪のＵＳＪと比べると規模感はやはり小さい部分があるため、ジブリパークができて複数拠点があるということは、非常に魅力的だと思います。ジブリ映画は今でも外国で関心・人気があると思いますが、最近の海外の大手の映画配信サイトでも配信されるようになって、海外での知名度はさらに上がっています。そういった外国人を含めて、愛知県に観光客を誘導するにあたって期待したいと前回も言ったと思いますが、そういったお客さんが、ただパークを訪れて名古屋を通過して、リニアで東京に行ってしまうとかではなく、やはり地域に波及するような準備が必要だろうと思います。

それから 19 ページの観光の推進では、やはり観光のコンテンツをわかりやすく紹介、ＰＲする必要があると思います。先ほど言いましたように、愛知県は、山のレジャー、川や海のレジャーも、非常にコンテンツとしてはいいので、そういったようなものをターゲット別に、どんどんＰＲすることが必要ではないかと思います。例えば若い女性で、山好きの人、海好きの人、それぞれ、過ごし方が違うと思います。それから観光スポットだけではなくて、おしゃれなカフェを紹介するとか、そういった、一日の滞在スケジュールを具体的に、ターゲット別にＰＲしていくことが必要ではないかと思います。

居住地の選択としても、愛知はすごく可能性を秘めておりますが、コロナ禍において、働く場とか、居住の思考というのはかなり変化しておりますので、こうしたことをしっかり捉えて、東京への流出を防いで、むしろ東京からどんどん愛知に来ていただくような居住政策、特にターゲット別、ライフ別のＰＲが必要ではないか思います。例えば、そこそこ街だけど 10 分で自然に行ける場所だったらこういう場所があるとか、それから奥三河のように、大自然に囲まれて、通信環境のよい場所で仕事も生活もできるとか、そういったようなライフスタイルの提案ができればいいと思います。

それから重要性の方向性⑩については、総合的な方向性が示されていていいと思いますが、例えば再生可能エネルギーの導入についても、もう少し具体的なイメージが出るといいと思います。住宅はもちろんですけど、公的施設、学校、県営住宅といった県で持っている施設で率先的に再生可能エネルギーの導入が図られるといいと思います。

＜髙木委員＞

まず、新型コロナウイルス感染症が出てきて、本当に世の中が大きく変わったというか、既存の仕組みが通用しない時代になったのではないかと思っています。そのことを踏まえて、冒頭に危機管理体制を掲げたのはいいと思います。

その一方で、疎ということの価値、密でない、疎の価値が非常に高まってきている気がしていて、疎である価値というものを、もう少し全体的に位置づけられたらいいと感じています。それは、多分⑩の持続可能な地域づくりで、環境との共生、自然との共生という部分だと思います。そういうことを中心にしながら、疎であるということを、どのように捉えていくのかということを、もう少し何か明確に示していただくといいということが一つ目の印象です。

あと大きく必要だと思う視点は３つあって、一つは主体性ということです。コロナ禍でも、一人一人が感染対策として手洗い・うがいを続けているから、日本の感染が広がっていかないということが、諸外国から評価されているわけです。これは、防災で考えても、自助という言葉が非常に重要だということに通じると思います。ですので、災害対策の中で、もちろんハードとソフトと両面がいりますが、もう少し、県民一人一人が、みずから災害の備えをしていくというところを、打ち出していってもいいかと思います。

二つ目は、災害対策のところで、協働とか連携とか共創とか、皆でやるということが非常に必要で、今回も、資料の２ページに土地利用の話を書いたのは、非常にいいと思っております。令和元年の東日本の洪水とか、長野県で立地適正化計画の居住誘導地域が浸水してしまったということもありました。これは、今、国の方でも都市計画と災害・風水害への対応というのは連携を模索しているところですが、この部分はやはり積極的に進めていくということをここで位置付けられていることは非常にいいことだと思います。どうしても今までは、都市計画は都市計画、防災は防災、河川は河川という感じが多かったのですが、まさにこの連携というか、共同というのは大きなことと思います。

そういう意味で、もう一つ、連携という意味では、愛知県はやはり自動車産業を中心にして、ＩＣＴ技術が発展していきますから、そういうものも災害対策だったりとか、環境だったりとかに生かしていくようなことが、もちろん書かれている部分がありますが、それをより積極的に他の分野にも生かしていくといいと思います。特に災害でも、非常に多くの情報が出てきているのですが、逆に多すぎて、なかなか県民が一人でうまく使いこなせないところがあったりもしますので、そういう情報をうまく自分の行動に生かしていけるような仕組みが組み込んでいけたらいいと思います。

それから、もう一つは、長期的な気候変動が本当に現れてきていて、ミティゲーションからアダプテーションへという、適応化計画が進んできているわけですが、各都道府県でも、地域の適応化計画を作っていかなくてはいけないことになっています。岐阜では、岐阜大学と連携をして、地域の気候変動に対する適応を考えていくような大学と官の連携センターを作っています。例えば、岐阜は柿の生産が非常に有名ですが、柿の生産が将来的にできなくなったりとか、エリアが移動したりということが長期的に予測できるようになってきているので、そういう部分も含めて、長期の気候変動に対することを、今から少し考えていかないといけないと思っています。防災においては、ハードのレベルを一段上げないといけないと思っています。雨の降り方がこれだけ変わってきていますので、ソフトで対応できる限界を超えているケースが本当に多くある

と思います。もちろんいろいろなことをやっていかなくてはいけないのですが、そもそも、今まで設定してきている、河川の計画降雨や計画規模とかも見直していくことが必要になっているのではないかと思っています。やはりハードのレベルアップを防災の部分でやっていく必要があるのではないかと思います。もちろん、こういうところに、ＩＣＴといった最新技術を生かして乗り切っていく対応策も非常に重要にはなっていきますが、その一方で、ハードのレベルを一段上げることが必要ではないかと思っています。そういう中で維持管理にコストが非常にかかっていくので、財政的にはどのようにお金を捻出していくのかということが大変かもしれませんが、維持管理と同時にハードのレベルアップということが重要と思っています。

それから最後ですが、実効性を持たせるような取組というか、例えば、防災でしたら、地域の防災訓練が行われていると思いますが、もう少し、一人一人が災害に備えられるような実効性をもった取組をやっていく必要があると思っています。だから、従来の防災訓練のように災害の起こった時の訓練ではなくて、災害の前にどれだけ備えられるかということが非常に重要なので、その部分の実効性を担保できるような取組が必要と思っています。

＜林委員＞

重要政策の方向性①⑧⑨⑩の中でも、特に自分の専門領域の⑨からお話をさせていただければと思います。

激変した環境に直面し、観光が壊滅的な打撃を受けています。今、観光の最前線にいる方にインタビューすると、想像以上に厳しい状況で、本当に壊滅的打撃を受けており、どれだけの観光事業者が生き残れるかというような状況になっています。ですから、このタイミングだからこそ、中長期ビジョンをしっかり備えていただければということをすごく痛切に思っています。

その象徴のインバウンドは、壊滅的打撃どころかもうゼロになってしまいました。インバウンドについて、先日、観光関係者の方々や専門家の人たちで意見交換しました。本当にインバウンドが回復するのかということは、実は皆さんも疑心暗鬼になっているのではないか、対策を今立てても、動けることはないだろうというのが本音のところだと思います。オンラインセミナーで皆で話をして面白いと思ったのは、2019 年の訪日外国人観光客数の一つの分析ですが、単純に訪日外国人を国民の数で割ったところ、アメリカでは 2019 年で 190 に１人ぐらいの方が日本にいらしていただいて、中国からは 150 人に１人、韓国からは 18 年から 19 年に政治的な問題で大きく減らしていますが、2019 年で９人に１人、2018 年で６人に１人がいらしていただいています。台湾だと５人に１人で、香港にいたっては３人に１人がいらしていただいて、2020 年の目標は 4000 万人ということで、さらに続伸していたはずであろうということが、こういう現状になってしまいました。

ただし、この話からいろいろ考えると、改めて日本の地理的条件であったり、文化だったり、治安だったり、食だったり、非常に魅力や好条件が揃っていて、インバウンドが成長してきたということがわかりますし、いつコロナが収束するかわかりませんが、中国からはまだ 150 人に１人しか来てないですから、十分増えていく可能性がありますし、その後ろに控えるアジアで経済成長している例えばタイで見てみると 52 人に１人とか、マレーシアで 60 人に１人、ベトナムは 190 人に１人ということで、まだまだこのアジアの方々が日本にやってくる可能性がすごく秘め

られていると思っています。ですから、観光は死なないとか、死なしてはいけないということを言わせていただいていますが、本当にインバウンドに関してもう今まさにこのタイミングで、次のインバウンド復活の時に向けて備えるときではないかと考えています。

後で進捗管理指標のことはお話したいと思いますが、外国の人たちにどう備えていくかという意味と、それから愛知県は、地域の力に比して言えば、インバウンドではまだ貢献できていなかったということは、進捗管理指標でもわかると思いますので、まさに今後、愛知県の頑張りどきかなと思っています。

リピーター率が 60%を超え、訪日外国人がどういうコンテンツに惹かれてくるかということでも、モノからコトへというように、購入ではなく体験を求めてきているということはさんざん言われてきました。少し気になったのは、新しいもの、新しくできるもの、新しく作るものはもちろんいいのですが、古いものを守るということも両面で考えていただきたいと思っています。新しいものが中心になっているところが少し気になっておりました。古いものというのは、やはり文化、伝統、町並みとか、特に町並みが壊されていっているということをすごく体感します。ただし、守ればいいということではなくて、先日の中日新聞で、愛知県の文化財に、県の美術館の工芸品と岡崎の松の並木の二つが登録されて、622 件になりましたという記事がありましたが、行政の財政が厳しくなる中、これをどう維持・保存していくかがすごく大切になってくると思います。ここでは無形文化財という表現がありますが、僕は実は有形文化財をどう観光に活用するかにもすごく注目しています。もちろん静的保存みたいな形の意見もあるし、ありのままの形を残すということは大切ですが、やはりこれを維持していって、観光のコンテンツとして活用していくという意味では、非常に有形文化財の活用も重要と思います。そして、文化財の前に、伝統産業から生まれた町並みだったりとか、古民家だったりとかがあるのではないかと思っています。

また、先ほど石川先生もおっしゃっていた、星野さんが言っているマイクロツーリズムは愛知県にとって大きなチャンスになると思います。地元の人たちがもう一度地元のものを見てもらうチャンスになりますが、チャンスをどうやって生かして、まずは愛知県民、東海３県の人に愛知県の観光資源をどう提示していけるか、そして地元の観光資源を守っていけるかということがすごく重要な視点になると思います。

それから新しいものも否定しているわけではなくて、ジブリパークも千載一遇のチャンスだと思っています。ジブリパークを利用した愛知県の先進的な取組をアピールできる情報発信のチャンスでもあると思っていて、ジブリパークに関して周辺自治体の方といろいろ話をすると、可能性を感じるとともに課題も感じていらっしゃいます。ここにも書いてある通り、渋滞であったり、アクセスであったりとか、あと宿泊だったりとか、そういうことにすごく課題を感じてらっしゃるということは、逆に言うとこの課題の解決の新しいソリューションを、ジブリパークを迎えるのと一緒に提示していくということは、ジブリパークが世界的に注目されているだけに、すごく情報発信力があると思います。愛知の先進的な取組と、ジブリのブランドイメージと相まってすごくチャンスじゃないかと思います。これを地元の大学としてやっていきたいのですが、大学は横連携が苦手だと感じておりますので、愛知県に音頭を取っていただいて、そういうことも愛知県の大学として取り組んでいくと、愛知県の大学の魅力を作っていくことにもなるので

はないかなと思っております。

①の危機に強い安全安心な地域づくりのところでは、自分の体験からになってしまいますが、前回お話しましたが、気仙沼にずっと学生を連れて行っておりますが、今年は行けないですから、気仙沼の方々とオンラインでよく話をしています。先日、東北地区も豪雨の被害がありましたが、感染症については、避難と密が、すごく密接に繋がっているということをどう解決するかがすごく大きな問題だと思います。

⑧のところでは、やはり中心市街地の活性化が非常に難しいです。最近商店街などでも成功事例的なものが出てきていますし、ここにも大学との連携ということで、本当に商店街というのは大学の学びの場としてもすごく大切なところになっていますが、特に魅力ある個店の創出という、商店街を引っ張っていけるような個店の創出がすごく重要なポイントなので、ここへの支援策というのをぜひお願いしたいと思っております。

最後、⑩では、ＳＤＧｓがお題目になってしまっていて、学生と話していてもお恥ずかしながら理解度がすごく低くて、自分も勉強中であるということもあるのですが、もっとＳＤＧｓには可能性があると考えておりますので、もう少し掘り下げていただければと思っております。

＜杉山委員＞

皆様がおっしゃったように前回の会議からの間に、新型コロナウイルスの流行がございました。ただ、そのおかげで、これまでやろうとしていたのにできなかったことが、強制的にやらざるを得なくなって、それがよい効果をもたらしていることも、皆さんご承知のとおりかと思います。コロナウイルスは強烈に、現代社会の弱いところを露わにして、人類の方向転換を迫ることになりましたが、一つのチャンスとも捉えて、愛知県の方向転換をしていく機会になればいいと思っています。その認識がこのビジョンにもとても反映されていると思います。

ただ１点、①のところで、危機に強い安全安心な地域づくりの中に、「気候危機」という観点を入れていただきたいと思います。様々な危機がありますが、今、地球温暖化問題というのは、もう単なる温暖化対策の枠にとどまる所ではなくなって、気候危機という認識のされ方をしています。実際、単純に気温が上がるというだけではなくて、私たちの暮らしですとか、経済とか文化といったものは、この地域の気候の上に成り立ってきていますが、その気候が根底から変わっていってしまって、それに対して私たちのライフスタイルも大きく変えなければなりません。コロナウイルスのように短期間ではありませんが、長期間かけてそれがじわじわと進んでいくという大きな危機であると思いますので、ぜひ①のところにも「気候危機」をいれていただきたく思います。それから、真っ先にこの影響を受けるのは弱者であるということから、様々な取組の中にも、必ず弱者を救うための施策を入れていただきたいと思います。

次に⑧について、前回の会議で「リトル東京はいらない」というのが皆さんの意見であったかと思いました。先ほどから密が駄目で疎だという話もありましたが、東京などの大都市のリスクも浮き彫りになっている中で、めざすべき方向は、大都市圏ではないというように改めて考え直さないといけないのではないかと思います。ご説明の中で、東京の受け皿という言葉がありましたが、そうではない愛知県らしいものを提示できるといいと感じました。

気候変動のシナリオは、一つのシナリオだけではなくて、幾つもシナリオを考えていて、一つ

が駄目ならその次に行けるような、リスクを分散させるという考え方があります。例えば、この期間内にリニアが大きな影響をもたらすとは思いますけれども、それに対するシナリオもある程度複数考えておいたほうがいいと思います。

方向性⑨について、コロナウイルスを機会に、多くの人の食への関心が高まったと感じており、実際にベランダなどで野菜を作ったりする人も増えています。こういった時に、愛知県には農林水産業があって、農業県であって、地産地消ができるということ、食が近いということにとても強みであるのではないかと考えています。そこで、食にまつわる観光とか、体験型のツーリズムとか、それから、今、様々なＳＮＳなど一つのものに対してのバックグラウンドを伝える手段がありますので、一つ一つの食に対するストーリーを持たせるなどして、魅力あるツーリズムをつくっていくのがいいかと思います。また、居住地として選ばれるという時に、やはり食が近いということも魅力だと思います。

それから、⑩の持続可能な地域づくりですが、様々な意見をとりこんでいただきありがとうございました。再生可能エネルギーはこれから主力電源化するということで、導入拡大をめざすものではありますが、自然破壊をする、森林破壊をするというものはせず、再生可能エネルギーを導入できればいいということではなくて、賢い入れ方をしていくというような、理念がいると思います。それから、環境ビジネスに関しては、若者の起業が重要であると考えています。

持続可能な地域づくりに向けては様々な対策がありますけれども、プラスアルファで、コベネフィットになる、トリベネフィットになるような取組を考えていくことがとても重要になるのではないかと思います。それはＳＤＧｓの複数のゴールをカバーできるものでもあります。例えば環境に配慮した省エネの建築物であったら、それを県営住宅にするとか、低所得者や生活弱者を優先的に住まわせたりするとか、そういうエネルギー消費が少なくて済むのは一定の補助金をその人に付与するのと同じことですよという考え方で、何かしらプラスアルファを考えるといいのではないかと思います。

それから、エネルギーの地産地消と併せて、分散型エネルギーの推進を入れていただいておりますが、分散型エネルギーの推進というのは、エネルギーレジリエンスとして防災対策にもなります。気候変動で、様々な災害が起こった時の適応策としても、分散型エネルギーが位置づけられておりますので、愛知県内に様々なこういった分散型エネルギーを導入していくことが重要だと思います。

そういう意味では、先ほども髙木先生がおっしゃっていたように、気候変動の適応策の加速が非常に重要になってきます。岐阜大学さんは岐阜県の適応センターということで進められています。愛知県内にもたくさんの大学がありますので、地域の大学とも連携をして、適応策の研究、そして実践というのを進めていってはどうでしょうか。

最後に、愛知県は様々なレガシーが集積していると思います。藤前干潟ですとか、愛知万博とか、ＣＯＰ１０、ＥＳＤ国際会議とか、そういったものを振り返ってみたときに、立ち止まってやり直すことができたものがあったと思います。そういった考え方ができるというのは、素晴らしいことだと思っています。今後のビジョンの中でも、めざすべき方向性に向かって、これまでの延長ではない、それを立ち止まって考える、方向転換ができる県であってほしいと思います。そういった中で、グリーンウォッシュとかＳＤＧｓウォッシュにはならないように、しっかりと

科学、サイエンスに基づいた政策・取組を位置づけていっていただきたいです。

そして、コントロール不可能なモノに対してどう折り合っていくのか、人間中心では通用しないということを過去に経験してきたということで、リスクに備えては長期的な撤退や転換という方向づけを一つの選択肢に入れていくことが重要だと思っています。先ほど、髙木先生がハードのレベルを上げるということをおっしゃっていました。これから様々な災害に対して、人間の力ではもう及ばないものに対応していく必要があるということも、長期的な視点として一つの選択肢として位置づけていただくことが重要かなと思います。

＜森川委員（座長）＞

それでは私の方からも、皆さんからいただいた意見を参照しながら、意見を言わせていただきます。

まず今回のコロナで、やはり国土の中における愛知県の位置付け、そして愛知県内の地域をどう作っていくかが、より一層明確になったと思います。この分科会でも、コロナが起きる前から、特に村山委員、それから私の方から、愛知県は分散型をもっと前面に出したらいいのではないかということを申し上げてきましたが、これがやはり明らかになりました。国土的には、東京一極集中はリスクが高すぎるということが明らかになったので、まずはリニアが通る愛知県が、日本のセンターとして、それから、スーパー・メガリージョンを活かしながら頑張らなくてはいけないと思います。それから、県内の地域開発のあり方も、名古屋一極集中ではなくて、適切に分散しながら、快適な生活を送れるようなことが重要ではなかろうかと思います。

高木先生から疎の価値という、私にとっては新しいとてもよい言葉を聞きまして、疎の価値というのを、もうちょっと追跡してもいいのではないかと思います。

例えばエネルギーの地産地消だったら、これは明らかに疎の価値があって、エネルギー密度が薄い例えば太陽光とか水力を使う場合には、密のところでは地産地消ができないのですが、疎であれば可能ということもあると思います。

それから、ジブリの話がありまして、林先生からもいろいろとお話をいただきまして、やはりこのジブリパークというのは、これをテーマパークと考えたら、ディズニーランド系それからＵＳＪ系と全く違います。あれはおとぎ話、また映画の世界みたいなアメリカ型のものを持ってきてエンターテイメントで楽しいものですが、ジブリの世界というのは超日本的で、日本の伝統的な生き方とか日本の自然のあり方を問うているものです。これを、エンターテイメントとまぜて、今回、愛知県にできるというのは、ディズニーランドやＵＳＪとは全然違って、そこにテーマパーク作るだけではなくて、このジブリのパークを使ったまちづくりとか、地域づくりというのを愛知県は進めていかないといけないのではないかと思います。そもそもジブリパークは、愛・地球博のレガシーですから、愛・地球博そのものの考え方がジブリにも、パークにも活かされ、それが県内のまちづくりにも活かされる。例えば、林先生の古い町並みを守るとかいう話もありましたし、愛知県は日本の中ではとてもいい自然環境を持っていて、伊勢湾、三河湾と二つの大きな内湾があって、かつ、渥美半島の外側は太平洋に広く面している。それから離島がまあ大きいのが３つぐらいある。それに山も、中部山岳地域ほどの山ではないですが、奥三河の方に行くと

そこそこの山がある。そして、里山地域が非常に多い。それに、名古屋みたいな 200 万を超えるような大都市がある。それから、木曽三川がある。とてもバラエティに富んだ自然を持っている県に大都市があって、こんな地域は多分、日本の中にどこにもないと思いますので、この恵まれた自然とジブリの考え方を地域づくりに活かしていくということをもう少し打ち出してもいいと思いました。

それから、①の危機に強い安全安心な地域づくりが今回のコロナを契機に、それが直接、選ばれる魅力的な地域づくりとか、持続可能な地域づくりそのものになってきているということです。防災・減災、それから防疫が、魅力的な地域づくりそのものになってきていると認識しています。

それから気候変動の話を杉山先生からいただきましたが、髙木先生に伺いたいのですが、気候変動で特に雨が暴力的になってきて、１時間 100 ミリという降雨が当たり前になってきています。これにどう対処したらいいのかなと。都市内の内水だけでも、すぐに膝ぐらいまで浸かったりする。それから、この間の熊本のように、山に降って、川があのようになってしまう。１時間 100 ミリ降雨に対する今後の中山間地域とか、都市というのはどう対処するのか、どう考えたらいいですか。ハードのレベルを上げるという話がさっきありましたが、あまり専門ではないんで、何かご意見があったら伺いたいです。

＜髙木委員＞

とても難問です。もう本当にやれることをやっていくしかないということだと思いますが、ただすぐにはできないという話も一方であり、自分の中でも、なかなか考えがまとまっていないのですが、一つ言えることは、先ほど言ったように、長期の気候変動を見たときに、やはりハードのレベルを一段上げないといけないのではないかと思っています。

海岸堤防でも、伊勢湾台風をベースにした高さで決まっています。その高さで本当にこの後もいいのかという話もありますし、都市内の内水の話や、中山間地の土砂災害の話でも、やはり今までの計画規模を１段上げるか、あるいは、最近の雨量とかのデータで統計し直してみたら、ひょっとしたら確率規模がもう変わっているのではないかと思ったりもします。岐阜でも、今まで 100 年に１回だった雨が、30 年に１回になったりとか、50 年に１回が、５年とか 10 年に１回ぐらいの確率になっているという話だったので、だからそういう意味では、ハードレベルを上げざるを得ないような状況になっているのではないかと思います。ですので、資料２の１ページ目のところに、河川とか海岸とか土砂災害の整備の着実な推進と書いているのですが、もう一歩踏み込んで、レベルアップというかグレードアップができないかと思います。

＜杉山委員＞

もうこれからは、そういう雨があるものと考えていかないといけないと私は考えています。海外では、１階は浸水しても仕方がない場所という建物の使い方をするとか、建物自体を垂直にかさ上げして、１階は浸かってもいいけど２階以上に居住しましょうというまちづくりをするとか、村山先生のご意見にもあるグリーンインフラといったものを都市の中でも活用して、雨水が直接下水に流れ込まないで、一旦は土に染みこんでいくようなまちづくりをするとか、郊外は水

田を活用してもらうなど。また、愛知県は輪中がありますよね。輪中では古くから洪水があるのが当たり前という暮らし方をしてきていますから、そういう暮らしの知恵、浸水しやすい地域の人は１階から物をちゃんとあげやすいようにしておく、ボートを備えておく、将来的には水陸両用車になるかもしれませんが、そういう住まい方ができないのであれば撤退をする。そのような考え方が重要だと思います。

＜森川委員（座長）＞

高木先生、杉山先生からいただきましたことは、できることはすべてやって、100 ミリの雨というのも当たり前に降ると、毎年１回ぐらいどこでも降るものとして、対処せざるをえないということですね。こういうことをもう少し明示的に入れ込んでいってもいいのではないと思います。

議題　次期あいちビジョンに係る進捗管理指標（案）について

＜石川委員＞

ビジョン自体が広いテーマを扱っているので、指標の選定は大変難しいと思いますが、指標 34 について、説明を読んでもよくわかりませんでした。アクセスを強化する道路整備延長というのは、どう見ていくものかということを、あとで教えていただければと思います。これが、各年で数値が変わるようなものなのかということを少し疑問に思いました。方向性としては、時間短縮ということを謳っているので、例えば道路整備とかハードの話で行くと、毎年毎年ここまで進みましたという指標を出せないというのはよく分かりますが、どういう状況にあるかというようなことを見ていくことが大事かなと思います。例えば、国勢調査だと、毎年はとれませんが、通勤時間がどう推移しているか、それから道路交通センサスなどを使って、アクセス時間がどう変化しているかというのは、整備の必要性を見る上でも、指標としていく必要があると思います。

それから、分散とか、疎の価値とか、いろんな話がありましたが、拠点の滞在人口、滞留人口がどう変化しているのかを見ていっても面白いと思います。今ですと、モバイルの空間統計とかありますし、そういう中で、人の集積とか移動を見ていって、分散とか疎というものを、どのように見ていくかを考えていただいてもいいと思います。

それから、県土基盤分野ではないのですが、指標６で、文科省の調査の数字があります。国の会議に出たときに、都道府県の教育関係のＩＣＴ関連のデータを説明されて、コンピュータ１台当たりの生徒数が愛知県が最下位だったのでびっくりしました。ハードがそろえばというものではないかもしれませんが、そういう最下位という数字を考えていただければと思います。それから、ＩＣＴを進めていく中で、子供たちがパソコンとかタブレットを使う時に、無線ＬＡＮ環境がないと話にならないのですが、県内の市町村で０％か 100％かで、すごく差が激しい。これはやはり教育格差とか、地域格差を生むので、県内地域格差がないような指標も必要と思います。

それから、方向性②～⑦に関する意見としましては、例えば、まず、３ページの創造性を伸ばすというのはとても大事だと思うのですが、例えば、中学生、高校生、大学生がもっと社会の最

先端を知るという機会があっていいのではないかと思います。例えば 11 ページに、ステーションＡｉの話がありますが、こういったところも社会人のものだけではなくて、中学校から高校、大学生ぐらいの人たちも訪れたり、それから、新たにスタートアップを始めた方だとか、いろんな社会で活躍されている方々と、中学生、高校生、大学生などが交流して、若いうちからチャレンジの意識を高めるような教育を、ステーションＡｉやスタートアップ支援の中でやっていってもいいと思いました。例えば、私のゼミは総合政策学部なので、今抱える社会課題を解決する最先端のいろんな策を考えていますが、高校まで歴史や英語は一生懸命勉強していて点数が高いのだけれども、社会の最先端は知らなさすぎて、新聞も読まないのでよく分からない。アイデアを出してといっても、なかなかいいアイデアが出てこなかったりします。やはり、中学生、高校生、大学生の頃から、直に触れていくっていうことが大事だし、欧米では、高校生、大学生の起業家などがたくさんいるので、そういう人たちを養成していくということもとても大事ではないかと思います。

それから５ページで、若者とか、就職氷河期の就職支援という話がありますが、まさにコロナ禍で、今年度４年生の学生たちはすごく就職が大変で、面接が途中でなくなって、採用中止しますというところがでてきたりして、満足な就職活動ができないまま就職できないか、もしくは、自分たちが考えるのと少し違うところに就職することがあると思います。そういったことも踏まえると、この対策は、来年、再来年と、どんどんやっていただきたいと思います。

それから７ページに、自治会とか地域のコミュニティに対して若い人が入ってこないという話があります。地域を守り育てていく上で、とても弊害になると思いますが、やはり若い人たちが入らないのには理由があります。例えば、日々仕事をしていて、知らない間に回覧板が隣の家に回っていくとか、サラリーマンで知りたくても地域のことが知れない、会合があっても出られない、という中で、役職だけ回ってくるということがあると思います。そういうことも、ワークライフバランスがとれるように、生産性を上げて時間短縮して、また、テレワークなどもうまく使って時間を生み出すことで、地域コミュニティ活動に参加できるようになりますし、回覧板も紙ベースではなく、デジタル回覧板のようなものの導入を促進するなど、新しいやり方でものを進めていかないと、地域コミュニティの改善に結びつかないと思います。

それから、森川先生からジブリパークの話がありました。私がジブリパークになぜ興味があるかというと、2005 年の愛知万博で自然の叡智を謳って環境万博をやったレガシーがやっと引き継がれたなという思いがあるからです。ジブリの世界は、自然だとか、環境だとか、平和だとか、それから人の倫理的生活だとか、そういうものをすごく大事にしていますが、愛知県にはそういった自然のいいところが沢山あります。例えば海上の森は万博のときに守られましたが、リアルジブリ世界がジブリパークの周辺だけではなくて、県内にもっとあるので、そういった自然の場所だとか、それから、昭和レトロな学校だとか、古い町並みだとか、そういうところをどんどんコンテンツとして、世界に出していくといいと思います。

＜事務局＞

指標 34 の主要な拠点間のアクセスを強化する道路整備についてでございますが、圏域内の例えば中核都市や産業集積地域、観光拠点だとかの相互の交流を活性化していくための道路ネッ

トワークを形成する道路整備の延長を考えているところです。

＜石川委員＞
　それは、どれだけ整備延長が増えていくかを見るということですか。

＜事務局＞
　そうです。

＜石川委員＞
　分かりました。

＜髙木委員＞
　まず、指標については、いくつかはたぶんアウトプットの指標もある気がしますが、できるだけアウトカムにしていく必要があると思います。例えば、10 の方向性があるので、これ自身について、県民の皆さんに 10 段階評価で満足度をウェブで毎年調査するようなことをやってもいいと思います。そのこと自身が、県として県民の皆さんに情報発信することにもなるので、県としての政策の方向性を県民の皆さんに説明をして、それを受けた県民の皆さんが自分の感覚でどれぐらいのレベルになっているのかを、例えば 10 段階や 5 段階で評価していただくようなことが、直接のアウトカムのやり方としてできないかというのが一つ提案です。
　二つ目として、指標２に地域防災リーダーの育成数があるのですが、防災の自助を見てみると、地域だけでやるのがもう限界にきていて、特に普通に就業している人たちの自助が非常に低いのが統計的にも出ています。ですので、企業で防災のことを進めていただくようなリーダーが必要だと思っています。だから、企業のトップが、社員の災害の備えを促進していく人を企業内に置くというか、指標と言うより政策なのかもしれませんけども、地域防災リーダーの意味づけを、もう少し拡張していったらいいと思います。地域コミュニティの中で、リーダーを育てていきましょうという目標になっているのですが、少し変えたらどうかと思います。
　それからもう一つが、これも政策かもしれませんが、今、市町村の危機管理に関して、特に災害対応でどのタイミングで避難勧告を出すか、避難指示を出すかということが、非常に混乱しています。たくさんの情報が出てきているのですが、なかなか処理ができない。防災担当の方々も、専門職ではなくて、２年、３年でどんどん移ってきて、なかなか専門性がない中で、判断しないといけないので、行政の危機管理の担当者をきちんと育成していくということは、県としてやっていかなくてはいけないと思っています。この地域防災リーダーの育成の中に、従来のコミュニティのリーダーだけではなくて、それぞれ役割が違いますが、企業や行政でのリーダーの育成が必要ではないかと思います。
　あと他の方向性では、一つ目は、人づくりで、石川先生からもお話がありましたが、やはりもう少し若い頃から、小中高から社会を見る目が非常に重要だと思っています。勉強していることと社会が繋がっていなくて、今やっていることが、社会とこう繋がっていて、将来どう生きていくのかというところの感覚がないと思います。広く言えばキャリアデザインだと思うのですが、

今、社会にイケてる大人たちはたくさんいますので、特に起業家精神、アントレプレナーの人たちと関わるということが必要と思います。

二つ目として、先日トヨタがプロボノを始めるということで中日新聞のトップ記事になりましたが、副業、兼業とか、プロボノとか、働き方の改革に伴って、もう少し自分の技術を生かした、あるいは興味を持ったところで社会活動をする、または、違う企業の新規事業の立ち上げをするというようなことが進んできています。公務員でも兼業ができるようになってきています。そういう部分をもう少し生かすような、ワークライフバランスの拡張かもしれませんが、例えば、愛知県でもいろんな地域課題をそういう人たちに投げていくというか、そういった人と一緒にやっていくような事業があってもいいのではないかと思います。例えば、アイデアソンやハッカソンなどの短期のイベントでもいいですし、半年ぐらいの長期にわたって、民間の人達と、行政の政策課題を一緒に議論をしていってもいいと思います。そういう政策づくりのやり方が、副業、兼業とかプロボノという形だとやりやすいので、そういう方向性が一つあったらいいと思います。

最後に、ジブリの話です。森川先生の話に非常に共感しまして、やはり愛知県全体がそもそもジブリの世界ではないかと思います。石川先生からも、万博の自然の叡智から繋がってきているという話があって、これから先、疎ということだったり、自然との共生だったり、気候変動とか、いろんなことの関わりがあるのですが、そもそもジブリのパークというだけではなくて、ジブリの世界そのものを、ジブリというブランドを上手に使って、自然との共生といった、私たちの暮らしを見直していくという政策を展開していくと、県民の人に非常にわかりやすいのではないかと思います。もう、愛知県＝ジブリでいいというぐらいの気持ちで、いろんな政策を、ジブリを使って浸透していくというか、そういう中で、みんなが生きて、暮らしていくとか、そういうことに広げていけたら、それ自身が愛知県のブランドにもなりますし、私たち、暮らしているものにとってもわかりやすく実行できるのではないかと思います。

私自身もジブリの映画はほとんど見ていてとても好きですし、やはりああいう世界に共感する人たちがすごく増えてきていると思いますので、そこを一番前に打ち出していってもいいのではないかと思います。

＜林委員＞

先ほど⑨のところでインバウンドのお話をさせていただいたので、それに関する 33 と 42 の進捗管理指標の外国人延べ宿泊数を、ぜひ注目してやっていただきたいと思います。外国人延べ宿泊数は、東京、大阪、京都、北海道、沖縄、千葉、福岡の次で、愛知県が全国で８番目です。それぞれ各地に魅力がありますし、愛知県より地域的には小規模の沖縄、千葉、福岡も、もちろん地理的な要因であったりとか、独自の文化だったり、ディズニーランドだったりとかいろいろあると思うのですが、やはり愛知県が８番目にいるというのは、これまで、ちょっと貢献できていなかったと思います。先ほど話したように、これからインバウンドが戻ってきた時にどう貢献していくかを考えると、この指標の注目ポイントは、やはりいかに滞在型にしていくかというところだと思っていまして、通り過ぎられるまち名古屋というような表現があったり、高山に行ってしまったりとか、金沢に行ってしまったりということもあると思うのですが、いかに滞在して

もらえる体験コンテンツをそろえていくかが重要だと思います。陶器関係の観光のお手伝いをさせていただく中で行ってみると、瀬戸も常滑もほとんどの体験が１時間です。これは鶏が先か卵が先だと思うのですが、皆さんのニーズが観光バスで来て１時間体験して 3000 円払って帰っていくということで、１時間のコンテンツがそろえられています。これをどうにかして少し長い時間で、趣味嗜好、そして先ほどから話がありますように、ワークライフバランスの中で自分のライフスタイルの中にいろんなものを取り込んでいくという動きがある中で、先んじて滞在型のコンテンツをなんとかそろえていくという努力が愛知県に必要ではないかと感じております。この数値は、当面１、２年は、ものすごく落ち込むことは明白ですが、中長期的視野でこの数字を上げていくということがすごく大切ではないかと思っております。

それから、②の次代を創る人づくりのところで、ＩＣＴ環境の充実とオンラインによる教育環境の充実があります。これは、どちらかというとインフラよりの内容かと思いますが、インフラだけでなく、教員のスキルとの両面が必要だと思っています。もう全国の教員が体感したでしょうし、５月にマイクロソフトのＣＥＯが、２年分のデジタル変革がわずか２ヶ月で成し遂げられたとおっしゃったのですが、僕らはその２年分の変革を浴びてしまって、右往左往という状態だったのではないかと思います。また、高校の先生たちと話をしたら、大学の方がまだ環境が整備されていて、小中高の先生たちはもっと厳しい環境に置かれているということを感じました。興味深かったのでいろいろ調べたところ、この指標６の授業中にＩＣＴを活用して指導できる教員の割合というのは、2018 年で 63.7％になっていて、63.7％の人ができると答えているのが僕としては意外でした。これはコロナ前の調査ですが、どういう質問をした結果かを掘り下げていくと、生徒たちの関心を高めるためにコンピュータで資料を効果的に提示するとか、児童の意見を効果的に提示するとか、ソフトウエアを使って課題に取り組ませるということでした。この質問のとらえ方が、オンライン教育に直面して変わったと思うので、今後、どういう結果が出るか興味深いですし、もっと踏み込んで調査して、逆に教員をサポートするようなデータとして使って欲しいと思っています。例えばこのデータでも、できると答えた人が 80％を超えているのは、岡山、愛媛、佐賀、熊本で、この差はなんだろうとか、そういうことも含めて愛知県のＰＣの台数だけでなく、教員のスキルもすごく支えて欲しいし、特に愛知県は誇るべき公立文化みたいなものがあると思っていて、小中高の先生が多忙すぎるので、学校における働き方改革も先陣を切って進めていただきたいと思っています。学校における優良事例の横展開と書いてありましたが、結果だけではなくて、教育方法の共有がすごくできていないことを僕も教育界に来てすごく実感しますので、そういうところが重要ではないかと思います。学校の中で働き方改革、もう少し言うと行政の人たちの働き方改革も含めて、すごくできていないところと思っています。

方向性⑨に戻りますが、それが、選ばれる魅力的な地域づくりになると思っています。名古屋は魅力のない町とか言われていますが、住んでみたらいい町というデータでは実は高い指標があります。移住・交流推進機構の 2018 年のデータで、関東圏で移住したい人が４割いるということが一時話題になりましたが、移住地として選ばれる魅力が何にあるかをそのデータで調べてみると、一番はもちろん災害や治安などの安全面であり複数回答で７割近い人が言っていますが、50％弱が教育面と言っています。住みたい選ばれるまちの中に、新しいイベントとか新しい施設ができるということだけではなくて、教育面の充実というのは、実は愛知県がものすごく

誇れる要素だと思います。だから、教員をサポートしていくところにマイナス面があるのであれば、そこの穴を埋めていくということが実はすごく必要だし、激変する教育界の中でどういうふうにやっていくかというのは行政も少し注目して力を入れていただきたいと思っています。

最後に、自分なりの視点でジブリをもう一度だけお話しさせていただくと、そうは言ってもジブリを相手に難しいということを思ってらっしゃる県の皆さんもいると思います。僕も放送業界にいたので、ジブリのブランド管理が厳しいところは体感しております。ただし、皆さんがお話したように、外でもできることがあるということが重要で、簡単にジブリ〇〇というような名称は使えないでしょうが、やはりそのコンセプトとか理念を生かしたまちづくりであったりとか、新しいソリューションみたいなものをＰＲしていくのは、相乗効果が絶対出てくると思うので、そういう観点で、ぜひ愛知県の方も大家さんなので、大家さんといってもなかなかジブリを使えないと思いますが、やはりぜひ有効に活かしてほしいというのは、もう本当に先生方がおっしゃるのと一緒です。例えば、愛知淑徳大学は長久手に立地しているので、ジブリオープンの際には長久手の渋滞であったりとか、交通の問題はとても大きな問題となると思いますが、それなら藤が丘から歩いてもらう方策がないのかとか、そういうウォーカブルなまちづくりで長久手が掲げる健康寿命に結びついていく部分もあると思うので、そういう外の部分でできることがいろいろあると思うので、ジブリパークオープンという機会をうまく使っていただきたいと思っております。

＜杉山委員＞

進捗管理指標の件で、熱中症というご意見が村山先生から上がっておりました。気候変動に関しては、温室効果ガスの排出量がありますが、危機管理の面でも併せて、熱中症の死者数がいいと思いました。搬送者数はその年の気候によって変動が大きいと思いますが、死者は出さないというつもりで、取り組みを進めてはどうかと思います。今、熱中症に関しては普及啓発が中心で、一人一人に熱中症にならないでねという取組がメインになっていますが、それとあわせて、「風の道」をつくるとか、緑地や水面をいれるという涼しいまちづくり、それから、熱中症になってしまった時にはその救急体制、病院でどうするか、そういった地域医療の面の幅広く様々な取り組みが必要とされるかと思います。そういった点で、熱中症の死者数が指標としていいと思いました。

それから防災の面では、避難所について、最近は、本当にどこも被災地になりうる状況だということでしたけれども、その防災拠点の整備というものを考えてはどうでしょうか。こんなに長いこと私たち日本人は自然災害とつき合ってきているのに、避難所が余りにも環境が悪すぎると思います。そして今、コロナウイルスもあって非常に難しい時ではありますが、もう少し避難しても損をした感じに思われないような、そこに行って人に会えてよかったとか、何かおいしいものが食べられたとかそういう防災拠点に、これこそレベルアップするということを考えてはどうでしょうか。それが、また、コミュニティが続いていくことのきっかけになるかと思います。

あともう一つ、あまり専門ではないのですが、地域にたくさんあるお祭りに関わる人とか参加者数も、リアルなコミュニティを維持していくということで、例えばお祭りが残っている地域は防災にも強いというような話を聞いたことがありますので、そういった観点もいいのではない

でしょうか。

それから、エシカル消費について記述がありました。エシカル消費をする人、それからそういった商品を出す事業者、そういった規格を取得する事業者といったものも、一つの指標になるのではないか思います。

また、人づくりは非常に重要だと思います。これから愛知県内の様々な地域で多核連携していく時に、その核で中心となるアクターを養成していくことが非常に重要です。愛知県はこれまで十数年にわたってあいち環境塾を開催していますが、今その見直しをしています。このようなものをもう少し幅広くバックアップしていってはどうでしょうか。

それから、この 10 年で産業構造が大きく変わると思います。ＥＳＧ投資などもあり、淘汰をされていくと思いますが、産業構造の変化を牽引する側に回るという見方が大事なのではないかなと思います。そういった観点で、村山先生のご意見には賛同します。

＜森川座長＞

それでは、私からもいくつか考えたことを申し上げます。

まず、進捗指標について、①の危機に強い愛知のところですが、今回これだけ感染症のことが出ているのに、指標が一つもないのはどうなのかなと思います。重症者向けの施設数がいいのか、病床数がいいのか、軽症者向けがいいのか、検査体制がいいかわからないのですが、今後も今回のコロナだけではなくて、常に新しい感染症と戦わなくてはいけないということが常識になっているので、その指標はいるのではないかと思いました。

それから、⑩の環境のところですが、先ほど申しましたように、やはりこの地域は非常に豊かな海、山があるので、少し昔っぽいですが、例えば、内湾の水質指標とか、河川の水質指標とか、そういうものは要らないのかなと思います。または、自然海岸の海岸線に対する面積というと、防災とトレードオフになってしまう面があるので、例えば今、干潟の復活、人工干潟に取り組んでいるので、干潟の面積とかはどうかと思いました。それから、山の方の緑に対する何か指標については、いいのがあんまり思い浮かびませんでした。

それから、観光の面も含めて、先ほどの林先生のお話もありましたように、古い町並みをこれから少なくとも減らさず、できれば少し増やしていくような、そういう地区の数とかがあってもいいのかなと思いました。

それから、⑨の愛知県への転出入者数ですが、全体の転出入であれば、今のところは辛うじて周りから集めてプラスかもしれませんが、愛知県でずっと言われている問題は女性です。しかも、生産年齢の女性がものすごく東京に出ていってしまっているということが一番の課題だと思います。特に西三河の産業地区は男女比が著しく男性に偏っていて、女性にパートタイム以外の仕事が非常に少ないのではないかということがあるので、例えば、20～40 代女性の転出入比率という方がよりこの愛知県の課題を的確に表しているのではないかと思いました。

それから、指標ではなく、①⑧⑨⑩以外の柱に対するコメントですが、働き方のところで、県内の企業のテレワークを進めると書いていますが、企業とか大学はかなり進んできていて、とにかく一番遅れているのは役所だと今回わかりました。とにかく県庁だけではなくて、市役所も、霞が関も悲惨です。パソコンを持って帰れない、ＵＳＢメモリーを持って帰れない、メールは見

られない。それでどうやってテレワークをするのかと思います。まず隗から始めよで、役所が本気でテレワークできる体制をぜひ整えて欲しいですし、こういう会議もオンライン会議で十分、今日も結構オンラインでやれているのではないかと思っています。別にパンデミックの時ではなくても、特に愛知県は東三河と尾張がとても遠いので、役所内で東三河ともいろいろな会議があると思うのですが、どんどんオンライン会議でやっていくとか、テレワークだけではなくて、こういう会議のオンライン化とかを、まず隗から始めよで、やっていただきたいと思います。

それから、最後に、②の次代を創る人づくりのところです。最近、ウェブのニュースで見てショッキングだったのが、世界の主要 48 ヶ国の中で、小中高生の教育にいわゆる批判的思考を取り入れている割合が断トツで日本が最下位でした。他国は 98%とかという中で日本だけ 25%だから、全然話にならない。批判的思考というのは人を否定するのではなくて、客観的に物を考えて、例えば先生が言っていることがどういう意味で正しいのか、正しくないか、客観的に物事を分析的に考えて、議論をお互いにし合ったりとかするということです。とにかく日本の教育は先生の言うことを聞いて、暗記して、テストでいい点をとる。それからいろんなこともすべて管理で行う。特に愛知県は管理教育で一番有名で、これはもう愛知県の教育委員会が大いに反省していただきたいのですが、今、ＳＮＳなどでものすごく中傷があったりするのも、結局、批判的思考ができていないからだと思いますし、失われた 30 年で日本がイノベーションができなかったのは、やはりこういう批判的思考が小さい頃からできていなかったからではないかと思いますので、私は教育学の専門ではありませんが、この管理教育で悪名高い愛知県から、批判的思考を小中高生から取り入れていくということをぜひ初めていただきたいと思いました。

私の方から以上です。委員の皆さんから言い足りなかったこととか、他の委員の方の言葉を聞いてつけ足したりとかがございましたら、お願いしたいと思います。

＜杉山委員＞

今、森川先生が教育のことをおっしゃいましたけど、私も大変賛同いたします。これまでの教育は本当にインプット、インプットで、温暖化問題についても知識としては持っているのですが、行動に結びつかない。このビジョンの中では、行動する人づくりを掲げているので、考えて行動するという人づくりをめざしていただきたいと思います。

＜石川委員＞

付け加えですが、デジタル化の話が森川先生からもありましたが、県土基盤なので、空港とか港だとか、道路だとか、社会インフラに目が行きがちですけど、やはりこの時代、デジタルインフラも、社会インフラの重要な要素です。無線ＬＡＮなどハードの話も含めて、ソフトの面でも役所のデジタル化やテレワークがなかなかうまくいかないという話がありましたが、この機会に進まなかったらいつ進むのかというところがあります。特にデジタルインフラを整備して使いこなし、テレワークとかそういった働き方もどんどん推進していってほしいと思います。今回は、ウェブ会議でできてよかったと思いますが、県でウェブ会議に抵抗があまりあるようだとよろしくないと思いまして、これを機にどんどん進めていってほしいです。

もう一つ、ジブリの話が出ましたが、いろいろ話を聞いていて、ジブリというブランド自体を

使うのはなかなか難しいのは実際あるかもしれませんが、ジブリの世界感を県で共有することがとても大事です。ジブリが何を世界観として訴えているかを、我々とか、県民とか、役所の方々がしっかり理解して、空港に着いたり、名古屋駅に着いたりしたら、もうその世界観が始まっているようにすることが大事です。渋滞していたら、ジブリの世界とは真逆だねという話になったりします。それから、太陽光発電も、大規模な発電を山の中に作っていたら本末転倒で、ジブリの世界観でないので、再生可能エネルギーの太陽光発電はこういう場所でやるんだという世界観、理念を大事にする県であるといいかなと思います。そういう意味で、今回のビジョンも詳細に文言を注意していただいた方がいいのかなと思います。

＜森川委員（座長）＞

今回初めてこういうオンラインでありましたけど、移動の時間も節約でき、村山先生は残念だったのですが、十分できるのではないかと思います。リアルはリアルで会うよさ、サイバーはサイバーのよさをこれからハイブリッドでまぜて、県の会議とか、県庁内の会議とかでぜひやっていただければいいと思います。

それでは私の進行は以上にしたいと思います。どうもありがとうございました。

＜坂田政策企画局企画調整部長＞

本日は長時間にわたり、また、これまでの２回の分科会も含め、熱心にご議論いただき、誠にありがとうございました。

この分科会でいただいた皆様からの貴重なご意見をしっかり受け止めていきたいと思います。今日いただいたご意見の中では、杉山先生から気候変動リスクを明示していくとか、気候危機に関する発言もありました。髙木先生からは、ハードの一段のレベルアップとか、森川先生からそこをもう一歩踏み込んだらどうかというご意見などがございました。気候変動につきましては、降雨量の増大とか、海面上昇を踏まえた対策について、お金の話もありますので、どこまでできるかというのはありますけれども、担当局としっかり議論していきたいと思っております。

それから各先生からいただいたジブリパークについては、地域全体で資源にして活かしていくという話はもちろんですが、もっと愛知県をジブリの世界観で一色に染めたらどうだというご意見もございました。なかなか全部できるかわかりませんが、そういったご意見を踏まえて、愛知県としても、さらに踏み込んだ議論をしていきたいと思っております。

あと、指標につきましては、いろいろご意見いただきました。まだまだ荒削りな部分もあると思いますので、ご意見を踏まえて、再度、検討をしてまいりたいと思います。

またこのビジョンに限らず、今回いただきましたご意見につきましては、今後の施策立案に活かしてまいりたいと思います。

なお今後のビジョンのことでございますが、ビジョンの素案を取りまとめまして、９月中旬に開催を予定しております全体の有識者懇談会でご意見を伺ってまいりたいと思っております。

分科会につきましては、本日をもって終了となりますが、また、先生方にいろいろご意見を伺いたいと思っておりますので、ビジョンの策定過程において、節目節目に私どもの状況も先生方にお伝え申し上げて参りたいと思っております。

改めましてお礼を申し上げまして、閉会のごあいさつとさせていただきます。
どうもありがとうございました。

以上